



取材協力 セントラルオート

●住所: 埼玉県八潮市八条1179
●☎: 048-930-6800
●URL: http://www.central-auto.net/
●定休日: 日曜日/祝日

車検や一般整備、さらにはエンジンやATのオーバーホールなどメルセデスのことなら何でもお任せの修理工場。代表の児玉氏は素人には分かりにくいメカニズムの話も丁寧に説明してくれるので、安心してクルマを預けることができる。

経年劣化は避けられないが
トラブルの対処方法は確立されている

もエラーが出ており、年式から見ても交換が必要という判断に。フェューエルポンプはとくに異常があったというわけではないが、初期モデルではゴムパッキンが劣化してフィルターを詰まらせるというトラブルが発生している。そのため、交換履歴が分からなければ新品の対策品に換えておく必要がある。

リフトアップして足回りを見ると、フロントのロアアームブッシュとストラットアームブッシュに亀裂が入っているのを確認。右側はメンテナンスされた形跡が残っているから、左側は手付かずだったということだ。ボールジョイント部分は今もブーツ切れしそうな状態だったので、アームごとの交換となった。

AT関係では、基板の接続部分であるEGSカプラーから若干のじ

みが発生していた。ただし、現状ではATの不具合は発生していないので様子を見るということになったが、電子制御式5速ATの弱点であるコンダクタープレート、ATF、ATFフィルターの交換といったメンテナンスは走行距離が増えれば必要になってくるだろう。

最後にセントラルオート代表の児玉氏のアドバイスを紹介しておく。「前期型は10年落ちですから、経年劣化は避けられません。これまでメンテナンスをしてこなかった車両を選んでしまうと、そのツケが自分にまわってきてしまうので、なるべく整備履歴が残っているクルマを選びたいですね。W211のトラブルについてはほぼ定番化しています。対処方法が確立されているので維持しやすいクルマだと思いますよ」

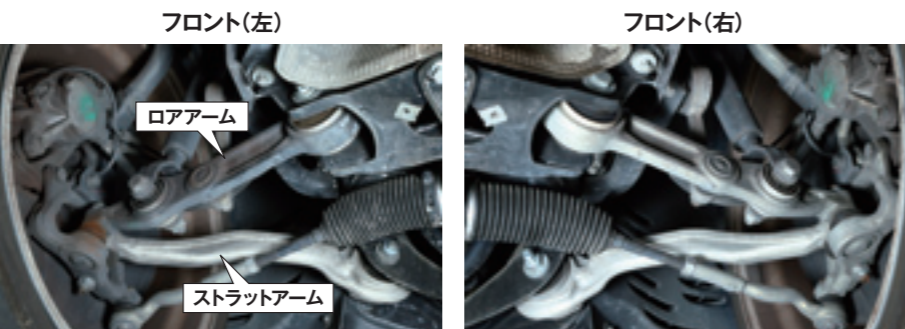
セントラルオートの点検プログラム「1Hマイカーチェック」で判明したメンテナンスポイント

1Hマイカーチェックで判明したポイントは以下の通り。センサー系、サブバッテリー、フェューエルポンプ、足回りのロアアーム、ストラットアームは交換が必要とのこと。クルマの現状を知るためには有効な点検プログラムである。立会い診断:1万584円(税込)、コンピュータ診断付き:1万6200円(税込)。事前予約が必要。

- エアマスセンサー
- クランクポジションセンサー
- ステアリングアングルセンサー
- フェューエルポンプ
- サブバッテリー
- ロアアーム
- ストラットアーム
- △EGSカプラー
- △ATオイルパンパッキン
- △コンダクタープレート

※●メンテナンスが必要な部分
△今後注意したい部分

足回り 右側はメンテナンスされていたが、左側は劣化が進んでいた!



サンプルカーをリフトアップして点検してみると、フロントの足回りに劣化を発見! 右側は過去にメンテナンスされた形跡があったが、左側のロアアーム、ストラットアームは劣化が進んでいた。セントラルオートの1Hマイカーチェックでは、実際に自分のクルマの状態を確認できる立会い診断なので、普段は見ることができない愛車の隅々までチェックできる。



足回りのアーム類はロアアームやストラットアームなどの専門用語が使われるが、要はアームの接続部分にあるゴムブッシュとボールジョイントのメンテナンスと考えると分かりやすい。ゴムブッシュに亀裂が入ったり、ボールジョイントのブーツが切れてガタが出ると、走行中に異音や振動が発生する。この世代のメルセデスはアームごと交換するのが主流である。

エンジン回り オイル漏れはないがセンサー系にエラーあり

空気の流入量を計測しているのがエアマスセンサー。ドイツ車に限らず輸入車の定番メンテナンス項目。エンジン不調の原因になりやすい。



燃料系 交換履歴が分からなければ

ポンプ&フィルターの交換を!

W211に搭載されるフェューエルポンプはインタンク式で、リアシートの下に設置されている。ポンプ部分とフィルター部分に分かれており、フィルターが詰まってしまうポンプがダメになるパターンが多いので注意したい。



産車と大きく異なるのは、消耗品の数であったり、輸入車ならではの弱い部分もあるから、それらを定期的にメンテナンスしていく必要がある。そのためには、できるだけコンディションの良いクルマからドイツ車ライフをスタートさせるのがベストなのだが、実際に200万円以下で流通しているドイツ車がどんな状況なのが気になる。そこで、プロによる徹底的なチェックしてもらい、今後どんなメンテナンスが必要になるかを、実際に車を使って検証してみることにした。もちろん、中古車のコンディションは「中古台異なるとしてすべてに当ては

まるわけではないが、維持の参考になると思う。サンプルカーは03年式のメルセデス・ベンツEクラス。先代のW211という型式である。

取材に協力してもらったのは、埼玉県八潮市にあるセントラルオート。メルセデス・ベンツ専門修理工場であり、クラシック世代から現代の高年式モデルまで数多くの実績を持つ。ATやエンジンのオーバーホールも得意としているから、いざという時に頼りになる工場である。

セントラルオートには「1Hマイカーチェック」というサービスがある。これはクルマ全体を1時間かけて徹底的にチェックする点検プログラム。

見逃しを防ぐために熟練のメカニック数名が同時にチェックし、意見を交わしながら最終的な判断を下すというもの。セントラルオートは数多くのメルセデスを整備しているだけに、基本的なチェックポイントのほか、その車種ならではのウィークポイントも見てもらえるので、愛車の状態を知るためにはぜひ受けておきたい点検プログラムだと言える。中古車を買ったら、まず点検。これは非常に重要なことであり、今後のメンテナンス計画を立てる上での判断材料になる。点検は無料だと思っている人も多いが、メルセデスに精通したプロによる点検は、日常点検レベル

とは全く違う。その違いを認識しておくべきだろう。

W211には2つのバッテリーが搭載される

サンプルカーにコンピュータ診断機を繋いでひと通りチェックしてもらった。いくつか気になるポイントがあった。まずは、空気の流入量を計測しているエアマスセンサー、エンジン不調の原因になることが多いクランクポジションセンサー、ステアリングアングルセンサーなどの電気系にエラーが出ていた。これらは症状が出ていなければエラーコードを消去して様子を見るという判断をする

こともあるが、エンジンの調子がおかしかったり、ESPの警告灯が点灯しているなどの異常があれば交換が必要になる。

もうひとつ、電気系で気になったのがサブバッテリー。W211こと先代Eクラスには、通常のバッテリーのほかに小さなサブバッテリーが搭載されている。メインのバッテリーはトランク内に収まっているが、サブバッテリーはエンジンルームの左ハルカヘッド近くに設置されている。サブバッテリーはコンピュータなど電子制御システムの電気をためておくもの。高度な電子制御を搭載する現代のメルセデスらしい部分だ。これに

200万円以下のドイツ車
どんなメンテナンスが
必要になる? 実車を使って徹底チェック!

200万円以下で販売されている中古車の現状を知るべく、プロに徹底的な点検してもらい、今後どんな整備が必要になるのかを洗い出してもらった。サンプルカーは03年式メルセデス・ベンツE320である。

●文=GERMAN CARS ●撮影=古閑章郎/G.C.E ●協力=セントラルオート



SAMPLE CAR
2003年式メルセデス・ベンツE320 (W211)

走行8.7万km

W211型Eクラスとしては前期型に当たるサンプルカー。走行距離は8.7万kmで、中古車市場では100万円以下のプライスが付けられているクルマもある。